高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」　**令和７年度(2025 年度)**

道立高校等の生徒の道内大学への派遣・交流事業（北海学園大学会場）

１.目的

道立高校等の生徒を留学生の在籍する道内大学に派遣し、留学生との英語による交流や、大学の講義の受講、研究室訪問等を通して、生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上及び派遣先大学についての理解の深化を図るとともに、国際的な視野を育み、海外と積極的に交流しようとする意欲の向上を図る。

２.主催

北海道教育委員会、北海学園大学

３.実施時期

令和７年(2025 年)６月 16 日(月)

４.実施場所

北海学園大学

５.参加者

全道の道立高校９校、24 名（１年次３名、２年次 12 名、３年次９名）が参加

６.日程

時　間	内　容
9:00-9:10	開会式・オリエンテーション
9:10-10:30	【ワークショップ①（留学経験のある大学生の経験談）】 「大学生と考える留学・海外渡航」
10:40-11:45	【講義①（英語による講義）】 「International Student Experience in Canada: A Professor's Perspective」
11:45-13:00	昼食
13:00-14:00	【ワークショップ②（留学生とのアクティビティ）】 「留学生との文化交流」
14:10-15:00	【ワークショップ③(「留学生に求められる資質」についてのディスカッション)】 「ケースに学ぶ異文化理解・コミュニケーション」
15:00-15:40	【講義②（日本語による講義）】 「国際的に対等な人間関係を構築するプログラムのススメー『世界青年の船』での学び」
15:45-16:00	リフレクション・閉会式

事業の様子

全道から集まった 24 名の参加者たちは、開式直後は緊張した様子を見せていたものの、北海学園大学の学生との交流では積極的に質問する姿を見せ、さらに、留学生との交流では、積極的に英語を使いコミュニケーションを図るとともに、終了後ＳＮＳを交換するなど、充実した時間を過ごしていました。

【ワークショップ①】「大学生と考える留学・海外渡航」

ワークショップの前半は、北海学園大学の８人の学生が、自身の留学体験について話してくれました。参加生徒は、留学には様々な形があり、目的や目標によって、渡航先や期間を決定することの大切さを学ぶことができたと思います。また、後半は、参加生徒が大学生に直接話を聞く時間を設けました。「なぜその国を選んだのですか？」「私もカナダに行きたいと思っているのですが、帰ってきたあと、日本で準備すべきと感じたことはありましたか？」など、参加生徒は積極的にコミュニケーションを図っていました。

【講義①】「International Student Experience in Canada: A Professor's Perspective」

カナダにあるレスブリッジ大学の学生を引率し、北海学園大学を訪れていたエイミー・シャー准教授に、「カナダで学べることやカナダでの留学生活について」講義をいただきました。参加生徒にとっては、どのような場所での留学を望むかを考えられるきっかけになりました。

【ワークショップ②】「留学生との文化交流」

北海道札幌南高等学校　野澤　みどり　教諭　の進行により、レスブリッジ大学の学生との文化交流を行いました。自己紹介のあと、参加生徒は事前に準備していた自身の学校についての「Two truths and a lie」をクイズとして学生に出題しました。また、数名の学生も、同様に、レスブリッジ大学の「Two truths and a lie」を出題してくれました。両者ともに、日加の文化の違いを学ぶことができ、「Really?」や「すごい！」が飛び交う時間となりました。

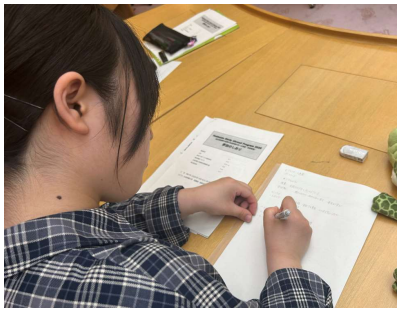
次に、野澤教諭は、「Survival Abroad」と題した、留学先で想定される様々な事例に対する対処法や解決策を考えるアクティビティを行いました。参加生徒は学生と積極的に英語でコミュニケーションを取り、有効な対処法や解決策を考えていました。

【ワークショップ③】「ケースに学ぶ異文化理解・コミュニケーション」

野澤教諭は「Cross-Cultural Understanding」をテーマに、ワークショップを進めました。始めに、野澤教諭自身の海外研修引率経験談や札幌南高校生の留学事例の紹介を通して異文化理解を深めさせ、そのあと、参加者同士で「留学生に求められる資質」などについてディスカッションを行いました。ワークショップの最後には、野澤教諭から参加生徒に【Better late than never.「何事も手遅れということはない」】というメッセージがかけられ、参加生徒のモチベーションが向上したものと確信しました。

【講義②】「国際的に対等な人間関係を構築するプログラムのススメ－『世界青年の船』での学び」

北海学園大学　石井　晴子　教授を講師に、「世界青年の船」での学びについて講義をいただきました。参加生徒にとって、「どこの国でもない」環境で生活し互いに学び合うことの重要性や、「異文化理解は他者理解である」ことを理解できた貴重な時間になりました。また、今後、留学などで様々な国の方に会う中で、どこの国の人とも対等な関係を築くことが必要であり、そのヒントとなるたくさんの視座を与えていただきました。



閉会式では、北海道教育委員会から参加者へ修了証を贈呈し、参加者代表から感想が述べられました。最後に、北海学園大学　森下　宏美　学長　から「今日の経験を生かして、今後さらに、海外へ目を向け、世界に羽ばたく方になってほしいと思います。」と挨拶がありました。

プログラム全体を振り返って、参加者からは、「留学に興味があった中で、このようなワークショップが開かれると聞き、参加することを決めました。今回のワークショップを通して、さらに留学への関心が強まりました。」「自分とは価値観が違う様々な人とたくさん交流して緊張したけれど、内容の濃い、充実した時間を過ごすことができました。」などの感想がありました。

この先、自分の将来を考えるとき、本プログラムで体験したことや学んだことが生かされることを期待しています。